

I. 令和3年 佐世保市観光の概況（1月～12月）

令和3（2021）年は、前年同様、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、全国的に観光関連産業は低迷が続いた。

感染者数も拡大と減少を繰り返し、一時的に落ち着きを見せた秋頃には旅行需要の回復に期待が持たれたものの、一年を通してみると行動自粛の傾向は続き、総じて大変厳しい対応を迫られた年となった。

なお、訪日外国人観光客数は24万6千人で、コロナ前の2019年（3188万人）と比べると99.2%減（JNTO推計）となり壊滅的な状況が続いた。

佐世保市においても、特にまん延防止等重点措置の実施期間は、観光施設や宿泊施設、飲食店等の臨時休業や時短営業を余儀なくされるなど、前年同様に厳しい状況が続いた。

旅行需要喚起策として実施した県民対象の宿泊キャンペーン（12月に隣県も対象）や方面振替となった修学旅行の受入れにより、後半期には一部持ち直しの動きもみられたが、通年では期待した人流の回復には至らず、本市を訪れた観光客数は314万6千人（対前年99.1%、2万9千人減）、宿泊客数も87万7千人（対前年101%、8千5百人増）と、いずれも前年並みにとどまる結果となった。

II. 令和3年度事業について（4月～3月）

「コロナ禍での経済活動の促進と収束後を見据えた地域力の向上」

1. コロナ禍での地域経済を活性化、回復させる取り組み

新型コロナウイルス感染症の収束が見えないなか、コロナ禍における観光動向の大きな変化を踏まえ、短期的には、まずは近場からの観光客の確実な取り込み「マイクロツーリズム」の推進として長崎県及び隣県の県民を対象とした宿泊キャンペーンの実施、あわせてウェブやマスメディアによる佐世保市内、長崎県内他市町及び福岡を中心とする北部九州エリアに重点的なPRを展開した。

中期的には、佐世保市内唯一の観光地域づくり法人（DMO）として、国・県が実施する新型コロナウイルス感染症拡大による経済対策を活用し、地元事業者が計画する「コロナ収束後も視野に入れたコロナ禍での観光活性化に資する様々な事業」を連携して進めた。

（短期）

- ✚ 九十九島誘客事業（ハウステンボス連携PR）／13頁
- ✚ 佐世保市内でゆったり宿泊キャンペーン業務／20頁

（中期）

- ✚ 観光庁「既存観光拠点の再生・高付加価値化推進事業」／21頁
- ✚ 長崎県「観光地受入態勢ステップアップ事業」／21頁

2. コロナ収束後を見据えた受入体制の整備と誘致活動

DMOとして、「住んでよし訪れてよし」の観光地域づくりを目指し、地域団体等の主体的な取り組みの支援に加え、地元の観光商品・商材の取扱いに特化した旅行会社として、様々な体験コンテンツなどの発掘から磨き上げ、販売までを一元的に行える体制を強化した。

また、令和4年度に向けグルメ観光の推進や二次交通アクセスなど“令和3～5年度佐世保市観光アクションプラン”に基づく企画を地域の関係団体や市内外の企業と連携した取り組みをはじめた。

海外については、渡航制限解除後の訪日旅行需要を期待し、重点エリアである東アジア地域に対してWEBメディアやSNSを活用した観光情報発信、現地旅行会社へオンラインセールス等を行った。

- ✚ 観光地域ブランド確立支援事業／7～11頁
- ✚ 訪日外国人誘致事業／17～18頁
- ✚ 西九州させば広域都市圏連携事業／18～19頁
- ✚ 環境省「国立公園等での滞在型ツアー推進事業」／20頁

■佐世保観光コンベンション協会 令和3年実績

(1) 佐世保市指標

項目 \ 年	単位	R3 実績	R2 実績	R2 比	R1 実績	R1 比
① 観光客数	人	3,146,152	3,174,995	99.1%	5,824,354	54.0%
② 旅行消費額	百万円	43,238	44,029	98.2%	86,205	50.2%

(2) DMO指標 ※ () 内、外国人

項目 \ 年	単位	R3 実績	R2 実績	R2 比	R1 実績	R1 比
① 宿泊消費単価	円	34,491	35,581	96.9%	38,744	89.0%
② 延べ宿泊者数	人	1,064,630 (55,028)	1,085,022 (65,864)	98.1% (83.5%)	1,845,368 (167,897)	57.7% (32.8%)
③ 来訪者満足度	%	93.4	95.2	98.1%	89.4	104.5%
④ リピーター率	%	72.5	63.4	114.3%	58.4	124.1%

※ (2) -④リピーター率は、2回以上来訪者数の合計（無回答除く）